

歴博くらしの植物苑だより

第92回 くらしの植物苑観察会 7月22日(土) 13:30~ くらしの植物苑

『植物をめぐる禁忌』 篠原 徹 本館民俗研究系

第9回 日本の植物文化を語る 8月26日(土) 13:30~ 本館講堂 入場無料

『近世の園芸文化—その仕掛け人と作り手—』 小笠原亮 (江戸園芸研究家)

苑内で見られる花・果実

畑 トウガラシ ウド カボチャ アマゴマ ラッカセイ

温室 ハグラウリ マクワウリ ヒメウリ モモルディカメロンなど14種類

庭 千成ヒョウタン つるくびヒョウタン いぼヒョウタンなど9種類

樹木 ザクロ オオヤエクチナシ ケンポナシ

果実 ヤマモモ ソシンロウバイ トチノキ オニグルミ ハンカチーフノキ

草本 ハンゲショウ ベニバナ センノウ コオニユリ オオガハス ムクゲ

ベニバナの花の構造と利用

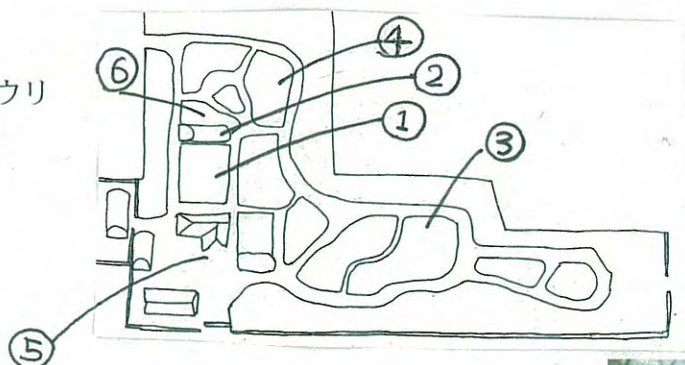


ベニバナの花弁の下方が黄色から少し紅色になったら、花弁だけを摘む。朝の露の降りている時花弁を摘んで、そのまま乾燥 『乱花』

花弁に水を加える。黄色色素が出てくる(庶民の衣料の染色)

水分を保持しながら発酵、餅状にして保存 『餅紅』

- ①ベニバナ
- ②シロハグラウリ
- ③ケンポナシ
- ④コオニユリ
- ⑤センノウ
- ⑥ヤマモモ



①ベニバナ キク科ベニバナ属

南西アジア原産の2年草。古代の遺跡からも果実の出土例があります。藤ノ木古墳では石棺の中の真っ赤なものが、ベニバナの花粉であったことから、ベニバナが副葬されていたことがわかりました。16世紀には、最上紅花が有名で京友禅の紅色に、口紅に、虫下しにと売買されました。(図録：海をわたった華花参照)



②シロハグラウリ ウリ科キュウリ属

1年生のツル植物で、畑奥の温室は色々なウリ類が栽培されています。その1つのシロハグラウリの雄花です。雌花は本づるには殆どつきません。小づるの第1,2節に雌花をつける時もありますが、孫づるの第1,2節には必ず着花します。花が雄花か、雌花か、両性花かはゆっくり花の中を見てみてください。



アオハグラウリ シロハグラウリ 仁保ウリ 晋州越瓜
南部金甜瓜 黄香瓜 金俵甜瓜 銀泉 一口メロン モモルディカメロン 雑草メロン
コヒメウリが御覧になれます。

③ケンボナシ クロウメモドキ科ケンボナシ属

高木全体が花に覆われるように、新枝の葉腋に集散花序をつけます。淡緑色の花には、昆虫があつまっています。落ちた花で、道は花のジュータンを敷いたようです。花や果実をお酒につけたり、果実を食用にしたりします。



④コオニユリ ユリ科ユリ属

山地の生える多年草で、ユリ属のなかで、花が横や下を向き、橙赤色の花をつけるものは、オニユリとコオニユリがありますが、むかご(珠芽)を付けていないので、コオニユリです。鱗茎は食用に利用されていました。



⑤センノウ ナデシコ科センノウ属

中国原産の真っ赤な花で、江戸時代には七夕花扇などに使われた記録があります。しかし絶滅したとさえ思われていました。その花が現存していた、という劇的な発見がされたのは1995年でした。苑で咲いているセンノウは発見された畑のものです。2004年に切花としていただいたものを挿芽してやっとここまですになりました。



(図録：海をわたった華花参照)

⑥ヤマモモ ヤマモモ科ヤマモモ属

暖地に生える常緑高木で、雌雄異株です。5月に紹介した株で、表面のつぶつぶは多汁質の粒状突起で、果実の中にはモモやウメのような硬い核が1つあります。果実は食用に、またジャムやお酒に利用します。

